

分科会名 <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 30px; margin: 10px auto; text-align: center; line-height: 30px;">理科</div> 令和元年6月5日（水）	会 場 川崎市立 菅 小学校 助言者 川崎市立小学校理科教育研究会会長 <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">小川 俊哉 岩倉 義則</div> 川崎市総合教育センター 永田 賢 授業者 川崎市立菅小学校 小林 直人 望月 美和子 <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">小川 泰明 篠原 理恵</div> 司会者 川崎市立東柿生小学校 宮野 利隆 記録者 川崎市立東柿生小学校 岩澤 烈 世話人 川崎市教職員組合 中野 美紗都 出席者数 117名
--	--

1 提案の概要

研究テーマ「自らかかわり 分かりやすく表現し 考えを高める子」

サブテーマ ありのままに見ること、比べることを大切にした学習過程を通して

2 研究協議の概要

4年生部会「電気のはたらき」

- ・電機の流れの向きを子どもはどのように感じたのか。
- ・プロペラの向きや検流計の向きなど具体で話せたらよかった。
- ・子どもの思い込みを同様に修正していくのか。（例：電池が1個より2個の方が強くなるにきまっている。）

講師より

- ・授業の中で扱うことばを精査していくこと。（電気、電池、電流など）
- ・子どもの多様な考えを受け止める姿勢。（多様性を受け止める）
- ・参観した授業を自分ごとと考え、クラスに返していくことが大切である。

6年生部会「物の燃え方」

- ・実験方法を考えさせるときの教師の介入するタイミング。
- ・既習を関連付けて実験方法を考えさせることはよかった。
- ・考えが違う子とグループすることで共通点や差異点を見つけることができた。

講師より

- ・イメージ図はよかったが、粒子（物質）で考える子もいれば矢印で考える子もいた。子どもがどこまで理解して描いているのか見極めることが必要。
- ・科学とは何か。新たな知を見つけ出すことである。

3 今後の課題

○永田指導主事より

- ・身に付けさせたい資質、能力が指導要領のどの部分にあたるのか精査する。

<キーワード>

- ・資質・能力の育成、社会に開かれた教育課程の実現。
- ・よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る。
- ・子どもを主体にした研究が今後大切である。

4年生授業「電気のはたらき」

- ・プロペラの教材が今回とてもよかった。車を動かすために風を制御する必要が生まれる工夫があった。
- ・子どもたちが納得することが大切。

6年生授業「ものの燃え方」

- ・児童は燃やす経験が少ない現状から、今回の実践では十分に体験できていた。
- ・燃えている様子をありのまま受け止めて考えている姿が見られた。

